

奄美群島与論島から採集されたクロユリハゼ科魚類 ゼブラハゼ *Ptereleotris zebra*

岩坪洗樹¹・本村浩之²

¹ 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館（水産学研究科）

² 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館

はじめに

クロユリハゼ科魚類 (Ptereleotridae) は、体が細長く側扁し、腹鰭が左右に分かれ、ほとんどの種が遊泳性であることが特徴であり、日本から5属25種が知られている（鈴木・渋川, 2004; Hoese and Motomura, 2009; Suzuki et al, 2010; 明仁ほか, 2013）。

ゼブラハゼ *Ptereleotris zebra* (Fowler, 1938) は、伊豆諸島、小笠原諸島、南日本の太平洋沿岸および琉球列島に広く分布すると記述されることがあるが（例えば、吉野, 1988; 多紀ほか, 2005; 加藤, 2011）、奄美群島からの標本や水中写真に基づく本種の確かな記録はない（Yamakawa, 1979; 瀬能ほか, 1997; 明仁ほか, 2000; 鈴木・瀬能, 2001; 鈴木・渋川, 2004; 坂井ほか, 2009; 工藤・山田, 2011; 明仁ほか, 2013）。

2012年10月25, 26日に奄美群島与論島与論港付近から、2個体のゼブラハゼが採集された。坂井ほか（2009）によるトカラ列島からのゼブラハゼの記録は、水中写真に基づくものである。そのため、与論産の標本は奄美群島ならびに鹿児島県における標本に基づくゼブラハゼの初記録となる。よって、与論島から得られたゼブラハゼ2標本をここに記載し報告する。

Iwatsubo, H. and H. Motomura. 2013. Records of a ptereleotrid fish, *Ptereleotris zebra*, from Yoron-jima island, Kagoshima Prefecture, southern Japan. *Nature of Kagoshima* 39: 67-70.

✉ HM: Kagoshima University Museum, 1-21-30 Korimoto, Kagoshima 890-0065, Japan (e-mail: motomura@kaum.kagoshima-u.ac.jp).

材料と方法

標本の計数・計測方法は Hubbs and Lagler (1947) にしたがった。標準体長は体長と表記した。計測はデジタルノギスを用いて0.1 mm単位まで行い、計測値は体長に対する百分率で示した。胸鰭条数は左体側のものを計数した。生鮮時のゼブラハゼの体色の記載は、KAUM-I. 51348, 51385の生鮮時のカラー写真に基づく。本報告に用いた標本は、鹿児島大学総合研究博物館 (KAUM) に保管されており、標本のカラー写真と与論島におけるゼブラハゼの水中写真は同館の画像データベースに登録されている。なお、クロユリハゼ科は研究者によってクロユリハゼ亜科として扱われているが、本報告では Thacker (2000), 鈴木・渋川 (2004), および明仁ほか (2013) などにしたがってクロユリハゼ科とした。

結果と考察

Ptereleotris zebra (Fowler, 1938)

ゼブラハゼ (Figs. 1-2)

標本 KAUM-I. 51348, 体長64.0 mm, 鹿児島県与論町茶花与論港付近 (27°03'40"N, 128°25'02"E), 2012年10月25日, 水深20 m, タモ網, KAUM 魚類チーム; KAUM-I. 51385, 体長65.6 mm, 2012年10月26日, 日付以外の採集データはKAUM-I. 51348と同じ。

記載 背鰭 VI-I, 28-29; 臀鰭 I, 26-28; 胸鰭 24; 腹鰭 I, 5. 体各部の体長に対する割合 (%) は以下の通り: 頭長 20.8-21.2%; 胸鰭基部での

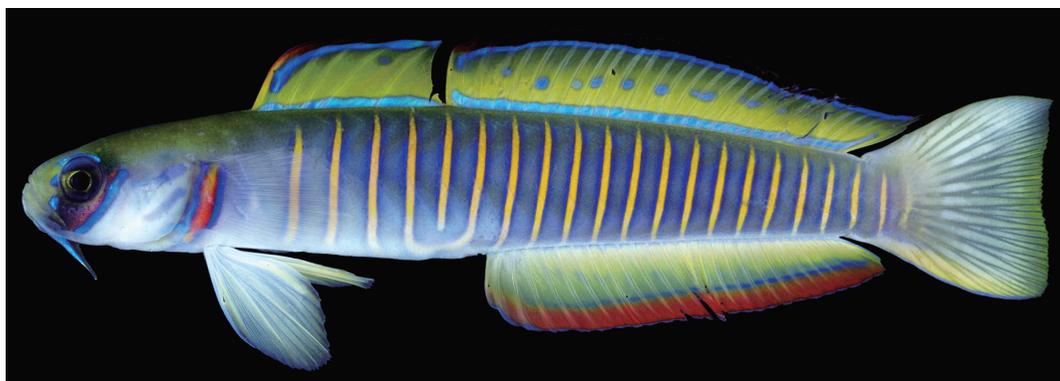


Fig. 1. Fresh specimen of *Ptereleotris zebra* from Yoron-jima island, Kagoshima Prefecture, Japan (KAUM-I. 51385, 65.6 mm SL).

体高 15.1–15.8%；胸鰭基部での体幅 12.5–13.6%；眼径 5.2–5.3%；吻長 4.1–4.6%；両眼間隔 6.9–7.2%；上顎長 7.0–7.3%；第 1 背鰭基底長 22.1–22.5%；第 2 背鰭基底長 46.2–46.4%；臀鰭基底長 40.4–41.6%；尾柄長 6.7–7.6%；尾柄高 9.6–10.2%。

体部は細長く、側扁する。主上顎骨後端は眼前縁下方をわずかに超える。頭部と項部は無鱗。体側の鱗は微小な円鱗。上顎歯は 3 列ある。下顎後方に犬歯がある。下顎先端は吻端より突出する。下顎に先端が尖った皮弁が 1 つある。眼は頭部側面に位置する。側線はない。背鰭は 2 基あり、第 1 背鰭と第 2 背鰭の高さは同程度である。第 1 背鰭は第 5 棘が最長となる。臀鰭始部は第 2 背鰭第 2 軟条下方に位置する。背鰭と臀鰭の後縁は尖り、それぞれの軟条はすべて分枝する。胸鰭の後端は背鰭第 5 棘と第 6 棘の中央下方に達する。腹鰭は左右に分かれる。腹鰭始部は胸鰭基下方に位置する。胸鰭と腹鰭の後縁は丸い。肛門は第 2 背鰭第 1 軟条下方の体腹面に位置する。尾柄部は短く、尾柄高は太く、体高の 0.6 倍。尾鰭は截形である。

色彩 生鮮時の色彩 — 体の地色は暗い黄緑色で、腹面に向かって白色がかかる。眼上縁は青色。眼直前と主上顎骨中央よりやや後部の上方にそれぞれ 1 個ずつ青色斑がある。眼を通る 1 本の濃紫色斜帯がある。頬部に 1 本、主鰓蓋骨上に 3 本の青色斜帯がそれぞれある。下顎の皮弁は濃紫色で、前縁が青色。体側面に青色で縁取られた細い橙色横帯が 20 本あり、そのうち前から 4 本目と 6 本目の帯は体側腹面で連結する。背鰭の地色は黄色。

背鰭は外縁が黒色で、その直下と背鰭基底をそれぞれ 1 本ずつ細い水色縦帯が走る。第 2 背鰭中央に水色斑が 1 列並ぶ。臀鰭は薄黄色。臀鰭外縁は水色で、その直上を太い赤紫色縦帯が走り、さらにその直上を細い水色縦帯が走る。胸鰭基底に青色で縁取られた赤紫色横帯が 1 本ある。腹鰭は薄黄色。胸鰭は透明。尾鰭は薄黄色で、縁に向かって濃くなる。尾鰭下縁は水色。

固定後の色彩 — 体の地色は明るい灰色で、体側面の横帯は乳白色。眼を通る 1 本の暗い灰色斜帯がある。下顎の皮弁は黒色。胸鰭基底に 1 本の暗い灰色で縁取られた乳白色横帯がある。各鰭は半透明で、背鰭外縁は黒色、臀鰭に 2 本の明るい灰色縦帯が走る。

分布 国外では、紅海を含みハワイ諸島を除くインド・太平洋に広く分布する（吉野, 1988；明仁ほか, 2000；Randall and Earle, 2000；Randall and Lim, 2000；Allen and Adrim 2003；Myers and Donaldson, 2003；Randall, 2003；鈴木・渋川, 2004；多紀ほか, 2005；加藤, 2011）。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、三浦半島、伊豆半島、高知県、トカラ列島、与論島、沖縄諸島、宮古諸島、八重山諸島、および南大東島から記録されている（Yamakawa, 1979；吉野, 1988；Randall et al., 1997；瀬能ほか, 1997；明仁ほか, 2000；鈴木・瀬能, 2001；Senou et al., 2002；鈴木・渋川, 2004；多紀ほか, 2005；坂井ほか, 2009；加藤, 2011；工藤・山田, 2011；明仁ほか, 2013；本研究）。

備考 本標本は、体側に側線がないこと、下顎下面に皮弁があること、背鰭が2基あること、第2背鰭が1棘26–28軟条であること、体側に20本の横帯があり、そのうち前から4本目と6本目の帯は体側腹面で連結すること、腹鰭が左右に分かれることなどからゼブラハゼ *P. zebra* と同定された。

吉野 (1988) と多紀ほか (2005) はゼブラハゼの分布に琉球列島含めており、さらに加藤 (2011) は南日本の太平洋沿岸も含めた。しかし、吉野 (1988), 多紀ほか (2005) および加藤 (2011) は分布の根拠を明記していない。Yamakawa (1979), 明仁ほか (2000) および鈴木・渋川 (2004) は、標本や水中写真に基づき、ゼブラハゼを沖縄諸島以南から記録した。また、鈴木・瀬能 (2001) はそれに加え、水中写真や未発表データに基づき、南日本の太平洋沿岸でのゼブラハゼの分布を伊豆半島と高知県のみとした。さらに、坂井ほか (2009) は水中写真に基づき、トカラ列島の口之島、平島および小宝島からゼブラハゼを記録した。奄美群島与論島から得られたゼブラハゼは、標本に基づく本種の沖縄諸島以北からの初めての記録である。

本種は与論島において水深 20 m 付近の石灰質の岩盤上を複数匹で群泳しており (Fig. 2), 人が近づくと近くの穴に逃げ込むことが観察された。

■ 謝辞

与論島での調査・滞在に際して鹿児島大学与論活性化センターの高橋 肇氏, ヨロンダイビングサービスの竹下敏夫氏, 与論町漁業協同組合の酒匂兼峯氏をはじめ職員のみなさま, 与論町役場の龍野勝志氏をはじめ職員のみなさま, 与論町商工会の岩村中里氏をはじめ職員のみなさま, 国立科学博物館の松浦啓一博士, 三重大学大学院生物資源学研究所の木村清志博士, 広島大学大学院生物圏科学研究科の木村祐貴氏, 鹿児島大学魚類分類学研究室の吉田朋弘氏, 西山 肇氏ならびに田代郷国氏には多大なご協力をいただいた。また, 鹿児島大学総合研究博物館ボランティアのみなさまには標本整理などのご協力をいただいた。以上の



Fig. 2. Underwater photograph of *Ptereleotris zebra*. Yoron-jima island, Kagoshima Prefecture, Japan, 20 m depth, 26 Oct. 2012 (photo by H. Iwatsubo). Specimens not collected.

諸氏に対して深く感謝の意を表する。なお, 本研究は, 鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島県産魚類の多様性調査プロジェクト」と国立科学博物館の「黒潮プロジェクト (浅水性生物の時空間分布と巨大海流の関係を探る)」の一環として行われた。本研究の一部は JSPS 科研費 (19770067, 23580259, 24370041) の援助を受けた。

■ 引用文献

- 明 仁・坂本勝一・池田祐二・藍澤正宏. 2013. ハゼ亜目, pp. 1347–1608, 2109–2211. 中坊徹次 (編), 日本産魚類検索 全種の同定, 第三版. 東海大学出版会, 秦野.
- 明 仁・坂本勝一・池田祐二・岩田明久. 2000. ハゼ亜目, pp. 1139–1310, 1606–1628. 中坊徹次 (編), 日本産魚類検索 全種の同定, 第二版. 東海大学出版会, 東京.
- Allen, G. R. and M. Adrim. 2003. Coral reef fishes of Indonesia. *Zoological Studies*, 42 (1): 1–72.
- Hoese, D. F. and H. Motomura. 2009. Descriptions of two new genera and species of ptereleotrine fishes from Australia and Japan (Pisces: Gobioidaei) with discussion of possible relationships. *Zootaxa*, 2312: 49–59.
- Hubbs, C. L. and K. F. Lagler. 1947. Fishes of the Great Lakes region. *Bulletin of Cranbrook Institute of Science*, (26): i–xi + 1–186.
- 工藤孝浩・山田和彦. 2011. 三浦半島南西部沿岸の魚類—VII. 神奈川自然史資料. 神奈川自然史資料, (32): 135–141.
- Myers, R. F. and T. J. Donaldson. 2003. The fishes of the Mariana Islands. *Micronesica*, 35/36: 598–652.
- Randall, J. E. and J. L. Earle. 2000. Annotated checklist of the shore fishes of the Marquesas Islands. *Occasional Papers of the Bernice Pauahi Bishop Museum of Polynesian Ethnology and Natural History*, (66): 1–39.
- Randall, J. E., H. Ida, K. Kato, R. L. Pyle and J. L. Earle. 1997. Annotated checklist of the inshore fishes of the Ogasawara Islands. *National Science Museum Monographs*, (11): 1–74.

- Randall, J. E. and K. K. P. Lim. 2000. A checklist of the fishes of the South China Sea. The Raffles Bulletin of Zoology, Supplement, (8): 569–667.
- Randall, J. E., J. T. Williams, D. G. Smith, M. Kulbicki, G. Mou Tham, P. Labrosse, M. Kronen, E. Clua and B. S. Mann. 2003. Checklist of the shore and epipelagic fishes of Tonga. Atoll Research Bulletin, (502): i-ii + 1–35.
- 坂井陽一・門田 立・清水則雄・坪井美由紀・山口修平・中口和光・郷 秋雄・増井義也・橋本博明・具島健二. 2009. トカラ列島口之島, 中之島, 平島, 小宝島における浅海魚類相—2002年–2007年の潜水センサス調査から—. 広島大学大学院生物圏科学研究科紀要, 48: 19–35.
- 瀬能 宏・御宿昭彦・反田健児・野村智之・松沢陽士. 1997. 魚類写真資料データベース (KPM-NR) に登録された水中写真に基づく伊豆半島大瀬崎産魚類目録. 神奈川自然史資料, (17): 49–62.
- Senou, H., G. Shinohara, K. Matsuura, K. Furuse, S. Kato and T. Kikuchi. 2002. Fishes of Hachijo-jima Island, Izu Islands Group, Tokyo Japan. Memoirs of the National Science Museum, (38): 195–237.
- 鈴木寿之・瀬能 宏. 2001. ゼブラハゼ *Ptereleotris zebra*, p. 596. 岡村 収・尼岡邦夫 (編・監), 日本の海水魚, 第三版. 山と溪谷社, 東京.
- 鈴木寿之・渋川浩一. 2004. 決定版 日本のハゼ, 初版. 平凡社, 東京. 534 pp.
- Suzuki, T., T. Yonezawa and J. Sakau. 2010. Three new species of the ptereleotrid fish genus *Parioglossus* (Perciformes: Gobioidae) from Japan, Palau and India. Bulletin of the National Museum of Nature and Science (Series A), Supplement, (4): 31–48.
- 多紀保彦・河野 博・坂本一男・細谷和海 (監). 2005. 原色魚類図鑑「図鑑編」, 新訂版. 北隆社, 東京. 971 pp.
- Thacker, C. E. 2000. Phylogeny of the wormfishes (Teleostei: Gobioidae: Microdesmidae). Copeia 2000 (4): 940–957.
- Yamakawa, T. 1979. Studies of the fish fauna around the Nansei Islands, Japan. 1. Check list of fishes collected by Toshiji Kamohara and Takeshi Yamakawa from 1954 to 1971. Reports of the Usa Marine Biology Institute, Supplement, (1): 1–47.
- 吉野哲夫. 1988. ゼブラハゼ, p. 237. 益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫 (編), 日本産魚類大図鑑, 第二版. 東海大学出版会, 東京.